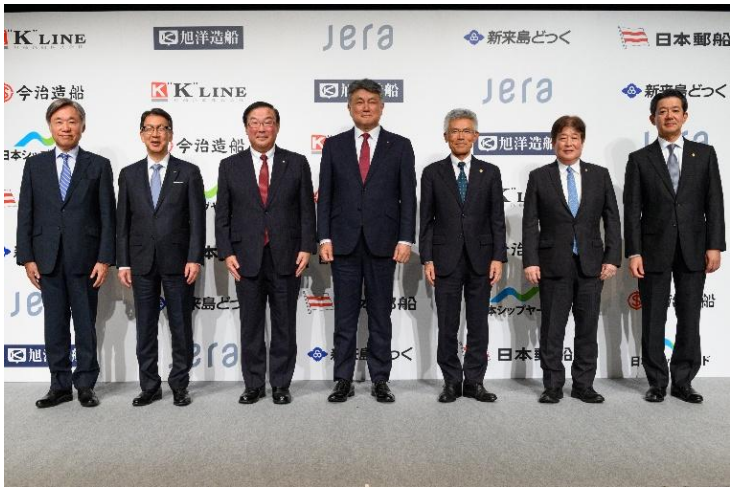
2026 年 10 月 27 日

今治造船株式会社
川崎汽船株式会社
旭洋造船株式会社
株式会社 JERA
株式会社新来島どっく
日本郵船株式会社
日本シップヤード株式会社

アンモニア燃料自動車専用船 4 隻の建造・運航およびアンモニアバンカリング事業の商用化について
～世界初、燃料調達から供給体制までの一体整備により、中部地区から国際海運の脱炭素化を推進～

今治造船株式会社（以下「今治造船」）、川崎汽船株式会社（以下「川崎汽船」）、旭洋造船株式会社（以下「旭洋造船」）、株式会社 JERA（以下「JERA」）、株式会社新来島どっく（以下「新来島どっく」）、日本郵船株式会社（以下「日本郵船」）、日本シップヤード株式会社（以下「日本シップヤード」）の 7 社はこのたび、中部地区におけるアンモニア燃料サプライチェーンの構築と、同供給網を活用するアンモニア燃料自動車専用船 4 隻の建造・運航に共同で取り組むことに合意いたしました。



「アンモニア燃料船の建造と船用燃料サプライチェーン構築に関する共同記者発表会」フォトセッション

1. 本プロジェクトの目的と全体概要

本プロジェクトは、グリーンアンモニアの調達から出荷基地の整備、専用バンカリング船（注 1）の建造および Ship to Ship（STS）（注 2）方式による燃料供給、そして自動車専用船の運航に至るまでを一体的に整備する包括的な取り組みです。国際海運における温室効果ガス（GHG）排出削減および顧客の Scope3 排出量削減のニーズに応えるため、サプライチェーンの各工程を一体的に整備し、アンモニア燃料の安定的な供給体制の確立を目指します。なお、燃料調達から中部地区における供給インフラ整備、そして運航までを統合して行う商用サプライチェーンの構築は世界初の試みであり、中部地区を拠点として展開していきます。

アンモニアは燃焼時に二酸化炭素（CO_2）を排出せず、液体で貯蔵・輸送することが可能な次世代のゼロエミッション燃料です。特に、製造過程の二酸化炭素（CO_2）排出を抑制した低炭素アンモニアは、発電分野での実用化に向けた取り組みが着実に進捗しており、将来的には海上輸送を含む輸送分野、その他産業分野での活用が期待されています。

7社はそれぞれの技術・知見・インフラを結集し、アンモニア燃料の調達・供給、アンモニア燃料自動車専用船およびアンモニアバンカリング船の建造を一体的に整備する先進的な事業モデルの構築を進めます。本取り組みを通じて、オールジャパン体制で国際海運分野の脱炭素化を推進するとともに、産業用途を含む広域的なアンモニアの利用拡大も視野に入れながら、持続可能な社会の実現と低炭素アンモニア市場の形成に貢献していきます。

（注1）バンカリング船：船舶に対して洋上や港湾内で燃料を補給する専門の船。本事業では、アンモニア燃料の毒性や腐食性に対応した高度な漏洩防止設備等を備えた専用船を建造・運航。

（注2）Ship to Ship方式：岸壁・桟橋に係留中もしくは錨泊中の船舶に、燃料供給船が接舷（横付け）して燃料を供給する方法。

2. 燃料調達および出荷基地の整備（JERA）

JERAは、グローバルな脱炭素化とエネルギー問題の解決に貢献するため、2050年に国内外の事業から排出される二酸化炭素（CO_2）の実質ゼロを目指し、低炭素アンモニアを碧南火力発電所における燃料アンモニア転換等で使用するほか、他の事業者への低炭素アンモニア供給に必要なローリー出荷設備の整備等、低炭素アンモニアバリューチェーンの構築・拡大に取り組んでいます。本事業においてJERAは、インド産をはじめとした製造過程で、再生可能エネルギーを活用するグリーンアンモニアを調達します。さらに、碧南火力発電所に隣接するアンモニア受入基地に新たに出荷設備を整備し、バンカリング船への安定的な供給体制を確立します。同基地を活用することで、国際海運、そして中部地区を拠点とした日本の脱炭素化に大きく貢献します。

3. アンモニアバンカリング船の建造と燃料供給・販売体制（川崎汽船・旭洋造船・日本郵船）

アンモニアバンカリング船は特殊船建造において高度な技術力を有する旭洋造船が担当し、アンモニア燃料自動車専用船と同じく2030年の竣工を予定しています。竣工後は日本郵船またはその100%出資会社が保有・運航します。

また、船舶間での円滑な燃料販売・供給を行うため、川崎汽船と日本郵船が折半出資による燃料販売合弁会社を設立します。同合弁会社は、日本郵船またはその100%出資会社のバンカリング船を活用し、自動車専用船に対してShip to Ship（STS）方式でアンモニア燃料を供給します。両社がこれまでアンモニアやLNGの取扱いで培った厳格な安全基準と運航ノウハウを融合し、安全かつ高効率な燃料供給体制を実現します。

4. アンモニア燃料自動車専用船4隻の建造・運航（今治造船・川崎汽船・新来島どっく・日本郵船・日本シップヤード）

川崎汽船および日本郵船は、社会の低炭素・脱炭素化ニーズに応えるクリーンな輸送サービスの実現に向け、2050年ネットゼロを目標として次世代燃料への転換に取り組んでいます。両社は本プロジェクトにおいて、それぞれ2隻（計4隻）のアンモニア燃料自動車専用船を導入し、2030年の竣工後はトヨタ自動車をはじめとする顧客向けの完成車輸送に投入を予定しています。

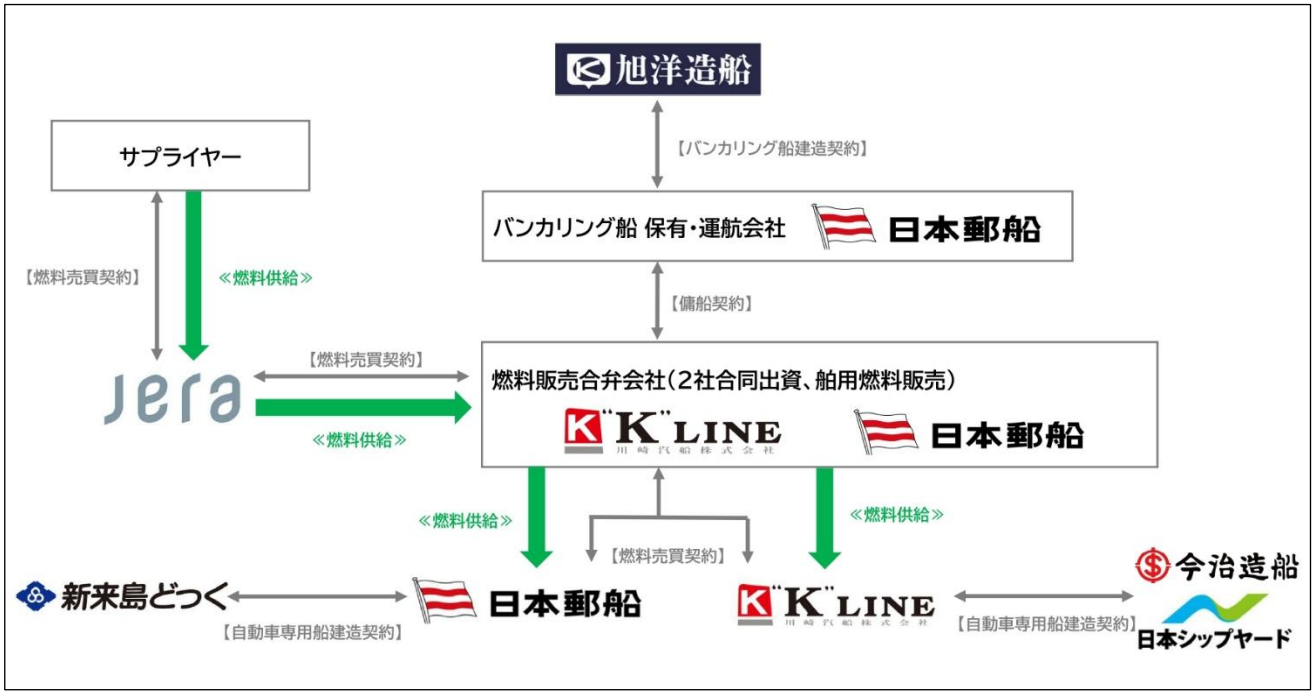
本船は国内初となるアンモニア燃料自動車専用船であり、アンモニアを燃料として使用できる「二元燃料エンジン（Dual Fuel Engine）」を搭載するとともに、太平洋航路をアンモニア燃料のみで航行可能な容量の燃料タンクを備える予定です。

また、毒性や腐食性を持つアンモニアを安全に使用するため、漏洩の防止・検知・漏洩時の除害をはじめとする多層的な安全対策を取り入れた船体設計を採用します。

本船の設計・建造にあたっては、世界最多の自動車専用船の建造実績を誇る新来島どっくが中心となって基本設計を担当し、同じく自動車専用船を手掛ける今治造船および日本シップヤードの3社が担います。各社がこれまで培ってきた高度な技術力と建造力を結集し、外洋航行における高い安全性と世界最高水準の環境性能を両立した次世代船を実現し、日本の造船技術の優位性をグローバルに示してまいります。

5. 役割分担

領域	担当企業	主な役割と取り組み内容
燃料調達・出荷基地	株式会社 JERA	インド産等のグリーンアンモニア調達、碧南火力発電所隣接基地への出荷設備整備・燃料供給
バンカリング船建造	旭洋造船株式会社	商用アンモニアバンカリング船の設計・建造
バンカリング船保有・供給	保有：日本郵船株式会社（100%出資会社） 供給：川崎汽船株式会社・日本郵船株式会社（合弁会社）	アンモニアバンカリング船の保有・運航、および折半出資による合弁会社を通じた、名古屋港・三河港を中心とする Ship to Ship（STS）方式での燃料販売・供給
自動車専用船設計・建造	今治造船株式会社 株式会社新来島どっく 日本シップヤード株式会社	二元燃料エンジン（Dual Fuel Engine）を搭載したアンモニア燃料自動車専用船（4 隻）の設計・建造
自動車専用船運航	川崎汽船株式会社 日本郵船株式会社	アンモニア燃料自動車専用船の保有・管理・運航

以　上

【本プロジェクトスキーム図】